秋田大学広報誌〈アプリーレ〉第56号 平成29年7月発行

秋田大学広報誌〈アプリーレ〉 Aprire

No.56
2017

〈特 集〉
高大接続センター新設

特集 大学に触れる。高校と大学の学びをつなぐ。高大接続センター新設

概　要

- ●高大接続センターは、アドミッションセンターの機能を有し、入試制度改革等に持続的に取り組みます。
- ●高校と大学の「学びの接続」やアドミッション・ポリシーを踏まえた入学者選抜方法の研究・開発及び秋田大学への入学希望者に対する広報活動について一体的に取り組みます。
- ●大学合格後から入学までの間にその生徒の苦手な分野を大学側で積極的に教育を行います。
- ●これらの取り組みを推進することにより、「良質な人材」を社会に輩出することを最終的な目標とします。

高大接続センターの前身「カリキュラム・トランジッション・センター」

この度設置された高大接続センターの前身にあたるカリキュラム・トランジッション・センター（以下、CTC）は、「高大接続教育の実践的プロジェクト」を担う組織として平成22年に企画され、同年、文部科学省による「大学教育・学生支援推進事業」の一つとして採択されたことでスタートしました。

このプロジェクトの当初の狙いは、「未修得問題」に対して組織的に対応しようというものでした。未修得問題とは、初年次生において、高校段階で理解しておくべき学習内容がきちんと消化されておらず、したがって高校段階での知識を前提とした大学の授業内容を十分咀嚼できない事態に至るという問題を指します。

これに組織的に応じるために企画されたCTCの取り組みは、高校の教育現場にある高校教員の協力を得ながら、高校と大学の接続教育の実質化を図ろうとするものでした。具体的には、高校の教員と大学の教員による高大接続テキスト（高校の学習内容が大学での授業にどのようにつながっていくのかが展望できるテキスト）の編集、高校と大学の教員相互の教育交流、e-Learningによって学べるリメディアル教材の導入、教員や上級生が初年次生の質問に答える共同オフィス・アワー（現「質問教室」）の設置、接続テキストを用いた高校での出前授業や、高校生を対象としたアカデミック授業の推進、などでした。

これらの事業は、文部科学省による補助期間終了後も継続的かつ発展的に実施され、高大接続センターに引き継がれています。

高大接続センター設置の経緯

現在、大学入試改革に注目が集まっていますが、これは平成25年に教育再生実行会議が「高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜の在り方の一体的な改革」を打ち出し、入学者選抜に活用する新テストの導入を提言したことが大きなきっかけでした。

その後、中央教育審議会の高大接続特別部会の答申（平成26年）や文部科学省の『高大接続改革実行プラン』（平成27年）、高大接続システム改革会議の最終報告（平成28年）などが公表されて、高大接続改革への関心が更に高まるようになりました。

『高大接続改革実行プラン』では「高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜は相互に密接に関連し合うものであり、新しい時代にふさわしい高大接続の実現のためには一貫した取り組みが必要である」としています。秋田大学では新しい入学者選抜方法の研究・開発のみならず、CTCがこれまで果たしてきた役割を吸収し、高校との連携をより深めて、高校と大学の学びの接続について一体的・総合的に取り組む組織として高大接続センターを設置しました。

高大接続センターの組織

高大接続センターは、以下の三つの部門で構成されています。

【高大接続教育部門】

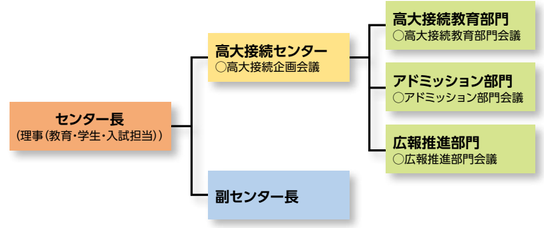
CTCが行ってきた高大接続教育の取り組みを継承しつつ、新規事業を展開し、高校教育と大学教育の学びの接続を更に充実・発展させていきます。

【アドミッション部門】

平成32年度から始まる「大学入学共通テスト（仮称）」への対応や、アドミッション・ポリシーに基づき、「学力の3要素」を多面的・総合的に評価するための制度設計の実施を目指します。また、入試データ分析はもちろんのこと、入学後の学習状況の追跡調査を行い、入学者選抜方法の自己点検・評価や改善に努めます。

【広報推進部門】

秋田大学の魅力発信や入学者選抜方法の周知を図るための企画・立案を行います。



秋田大学高大接続センターの発足を記念し講演会を開催しました

- ●日時
  平成29年7月24日（月）
  15時～17時30分
- ●会場
  秋田大学手形キャンパス60周年記念ホール
- ●講師・講演テーマ
  橋田　裕氏（前文部科学省高等教育局大学振興課大学入試室長）
  「高大接続改革における大学入学者選抜改革の動向について」
  白水　始氏（東京大学高大接続研究開発センター教授）
  「高校生の力を引き出し伸ばす学力評価と高大接続に向けて」

高大接続改革の進捗状況や「学力の3要素」の一つである「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」に関する評価の仕方、さらには高大接続の在り方等について、大学、高校教員がともに学び、共通認識を持つ機会となりました。

高校教育と大学教育の円滑で効果的な学びの接続を図ることを目的として、平成29年度は次の事業に取り組みます。

「高大接続テキスト」（平成22年度から開始）の作成・改訂や「高大接続アカデミック授業・出前授業」（平成23年度から開始）の実施、また、「高大接続教育フォーラム」（平成26年度から開催）等の事業を継続実施するとともに、新規事業として、高大接続教育協議会の設置、「教師ミニミニ体験」、「高校生のためのアカデミック・カフェ（仮称）」、「高校生のための質問教室（仮称）」、さらには「入学前スタートアップ講座（仮称）」等の実施を計画しています。

以下、新規事業について概要を説明します。

教師ミニミニ体験

目的	潟上市の小・中学校に登校可能な地域に居住する教員志望の高校生および秋田大学在学生向けに教育実習体験の機会を提供し、教職への適性の理解とモチベーションの向上に繋げます。
協力校	潟上市立小学校及び潟上市立中学校
内容	○開講式及びオリエンテーション ○「土曜塾」（潟上市教育委員会主催）への参加 ○高大連携授業 「教師ミニミニ体験」 －教職への展望をひらく－ （大学コンソーシアムあきた主催）への参加 ○配置校（潟上市小・中学校）での実地体験 （教科学習のワンポイント指導等） ○朝の会、帰りの会への参加 ○給食指導 ○振り返り（総括）及び閉講式
募集定員	30名程度 （潟上市小・中学校に登校可能な地域に居住する教員志望の高校生27名程度及び秋田大学在学生3名程度）

この事業は、秋田大学横手分校が県南地区で平成23年度から開催している「教育ミニミニ実習」を参考に、中央地区で実施する事業です。県南地区では、一回を重ねながら大きな成果が得られています。実施報告書の中には「各学校や校種の垣根を越えて、教職への夢を共有するもの同士の学び合いが広がっている」「最初は中学生と上手くコミュニケーションがとれなかった参加者（高校生）も徐々に『教壇に立つ』喜びを理解していく」などの記載も見られます。

秋田大学横手分校事業「教育ミニミニ実習」

秋田大学横手分校事業「教育ミニミニ実習」

高校生のためのアカデミック・カフェ（仮称）

高校生が大学の研究室を定期的に訪問したり、学会やシンポジウム等を聴講するなど、最先端の研究に触れる機会を提供するものです。高校生の高度な学びへの興味・関心、意欲を喚起することを目的とする取り組みです。

高校生のための質問教室（仮称）

大学研究室の研究内容を分かりやすく解説したパンフレット等を作成し、高校生と担当教員や大学院生らとの知的な学びの空間、機会を設ける取り組みです。徐々に専門的な学問の世界に誘うことを目的に、高校生と大学教員らがオンラインによって双方向の質疑応答ができる仕組みも構築する計画です。

大学生のための質問教室

入学前スタートアップ講座（仮称）

AO入試や推薦入試合格者向けの講座です。高大接続テキスト等を活用した講座で、大学入学前の高校生の学力の充実、学習意欲の向上を図る取り組みです。

高大接続教育協議会の設置

高大接続の事業を円滑に、効率良く、実りある取り組みにするため、秋田県教育委員会と秋田県高等学校長協会、秋田県高等学校教育研究会の代表者、それに秋田大学の担当者をメンバーとする「高大接続教育協議会」を新たに設置しました。

平成29年5月31日（水）に行われた協議会では、高大接続に関する取り組みについて活発な意見交換が行われました。

「高大接続センター」では、秋田大学が有している人的・物的資源を提供し、高等学校における学習指導やキャリア教育の充実を支援するとともに、大学合格後から入学までの「入学前教育」、入学後の「初年次教育」の取り組みを一体的、組織的に推進します。

また、これまでの入試データを分析したり、「学力の3要素」の多面的・総合的評価の在り方を研究したりしながら、アドミッション・ポリシーを踏まえた入学者選抜方法の改革にスピード感を持って取り組みます。秋田大学への入学を希望する高校生や入学した学生が秋田大学の充実した教育を通じてこれからの社会に不可欠な資質・能力を高い次元で身に付け、有為な社会人となって活躍できるように、円滑で効果的な高大の接続に向けた取り組みを前に進めていきます。

問い合わせ窓口

高大接続教育部門に関することは総合学務課高大連携室へ
TEL018-889-3045・2254

高大接続センターホームページへアクセス

アドミッション部門・広報推進部門に関することは入試課へ
TEL018-889-2269

入試情報（受験生ポータルサイト）へアクセス

教　員　紹　介

教育文化学部

「小中学生の学力トップ」の秋田から発信する「探究型授業」

大学院教育学研究科 教職実践専攻

阿部 昇 教授

秋田の子どもの学力が高い理由とは？

「授業の最初にめあて・課題を決める。ひとりで考えた後、班や学級全体で意見交換をして、授業の最後に、まとめ・振り返りをする」

秋田で生まれ育った人たちには、当たり前のような授業風景ではないでしょうか。積極的な子、引っ込み思案な子、周りと違う意見を持った子。そんな個性豊かな児童・生徒たちの意見を、先生はしっかりと聞いてくれて、どんな意見も決して切り捨てることはありません。

いわゆる「全国学力調査」でトップクラスを誇る秋田の小中学生の高い学力の理由は、このような児童・生徒主体の授業、「探究型授業」にあったようです。

批判的に読む力が育てる、真の国語力

阿部教授の著書

阿部教授の研究には「国語の授業で読む力を育てるための研究」「授業研究」「学力向上研究」の3つの柱があります。

1つ目は「国語の授業で読む力を育てるための研究」です。

国語は、「読む」「書く」「話す・聞く」という3つの大きな分野からなる教科です。その中でも阿部教授が注目しているのは「読む力」を育てること。阿部教授は、小学校低学年から中学校・高校までそれぞれの学年にあった「読む力」の育て方を、学生向け・教員向けに具体的に示しています。

2000年からOECD（経済協力開発機構）は、PISA（ピザ、OECDが進めている国際的な生徒の学習到達度に関する調査）をスタートしました。そこでは『批判的に物事を見る力』を重視した問題が用意されています。例えば提示された2つの異なる意見を基に「あなたはどちらの意見に賛成ですか？その理由を文中の言葉と自分の言葉を使って答えなさい」というような問題。また算数・数学においても「このグラフはこのように解釈されていますが適切ですか？適切ではないですか？その理由を書きなさい」というような、主体的な判断や批判的な思考を要求する問題が出てくるのです。

阿部教授はこの「PISA型読解力」のような批判的思考に早くから着目し、国語科教育の新たな展開を研究してきました。

目指すのは「探究型授業」の浸透

2つ目の柱は、「授業研究」です。

先に述べたようにPISA型読解力が求められるのは国語だけではなく、算数・数学においても、ただ解を導き出すだけでなく、何故その答えになるのかの理由を説明する力が求められるそうです。「先生が一方的に説明するような授業、指名された児童・生徒だけが発言するような授業では、十分なPISA型読解力は身に付かない。もっと児童・生徒自身が考えるような課題解決型の授業が必要だ」と阿部教授。課題解決型の授業とは、「授業の初めに先生が課題提示をし、最初はひとりで考える。次はグループで考える。そして学級全体で話し合い、またグループに戻る。最後に全体で様々な検討結果を振り返る」という授業の形態を指します。これを阿部教授は「探究型授業」と名付けました。

県内はもちろん、年30回以上の県外講演を通じ、この「探究型授業」の全国の教育現場への浸透を目指しています。

秋田の風土、教育環境の好循環が生んだ「学力トップ」という誇り

最後の柱は「学力向上研究」。秋田の小中学生の「全国学力・学習状況調査」における好成績は、他県の教育関係者からもかなり注目されていることです。その理由としては、秋田の子どもたちは熱心に授業に取り組み、先生の問いかけにも一生懸命答える傾向にあること。そして、児童・生徒主体の話し合い・対話・討論を重視する「探究型授業」の定着が、秋田の学力向上に役立っていると阿部教授は言います。

先生方は戦略的な授業設計の上で授業にあたりますが、実際の授業内では様々な意見が出されます。それらを汲み取りながら、先に立てた設計を修正し、授業をまとめていくのです。逆に児童・生徒たちの意見が一致した時には、別の意見を出して揺さぶりをかけたりもします。秋田の先生方の力量、コーディネート力のレベルの高さがうかがえます。更に、秋田県では校内授業研修会、小中連携授業研修会、地域授業研修会などが充実しており、全国的にも先生同士の授業研究のレベルが高いことから、質の良い指導がなされているそうです。

阿部教授は「なぜ秋田の子どもたちは学力が高いのか」、秋田県と他県の比較研究を基に学力向上のポイントを研究しています。また、平成19年から都道府県ごとに置かれた「検証改善委員会」の委員長としても、全国学力・学習状況調査の結果の分析をしています。

最先端の教員養成で身につける「質の高い教師力」

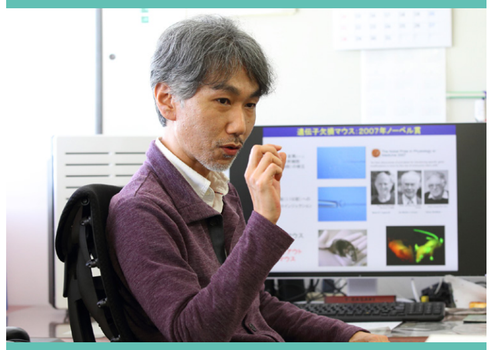
秋田大学教育文化学部と教職大学院では、教員養成において、どのような授業づくりをすると子どもに力が付くかということを丁寧に指導しています。また附属小学校、附属中学校は教育実習を行える環境にあるので、学生は実際の「探究型授業」や授業研究を自分の目で見て学ぶことができます。

最後に「私たちも最先端の教員養成をしているという自負があります。秋田大学では『質の高い教師力』を身につけて卒業できます。秋田県内はもとより、他県からもぜひ入学していただきたいですね。卒業後は学力向上の取り組みや共同研究で学んだことを地元に持ち帰ってもいいですし、教職大学院への進学も良い道となるでしょう」と阿部教授から、未来の先生に向けたあたたかいメッセージをいただきました。

秋田大学教育文化学部・大学院教育学研究科ホームページ　http://www.akita-u.ac.jp/eduhuman/

医学部

根っからの研究者が目指す、脂質代謝を標的にした新しい医療

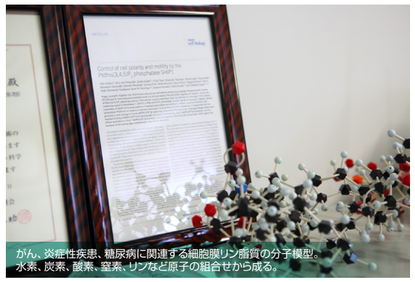


大学院医学系研究科 医学専攻 病態制御医学系 微生物学講座

佐々木　雄彦 教授

「健康」と「病気」

生き物は、「健康」と「病気」のふたつの状態に分けることができます。高齢化社会を迎え、日本人の健康に対する関心は年々高まっているとされていますが、私たちはどうしても病気を治すことに目がいきがちです。健康であることが生き物の標準的な状態です。「健康」のメカニズムがわかって初めて、「病気」（異常な状態）がわかってくるのだと、佐々木教授は語ります。



がん、炎症性疾患、糖尿病に関連する細胞膜リン脂質の分子模型。水素、炭素、酸素、窒素、リンなど原子の組合せから成る。

佐々木教授の研究対象は、がん、神経変性疾患、代謝異常症、免疫・炎症性疾患などです。これらの疾患となり病院に行くと、当たり前ですが病気の種類によって異なる診療科を受診することとなります。しかし病気の原因には共通点が多く、腸、肝臓、神経細胞、白血球など、発生した場所が違うことによって症状が異なるのだそうです。佐々木教授は、病気の原因は元を辿ると同じところに戻ってくることに可能性を見い出し、それを脂質（人の身体をつかさどる"油"）の側面からアプローチしています。

未開拓領域の「脂質」研究への参入

ヒトの基本設計図であるヒトゲノムの全塩基配列の解読は、1991年からはじまった「ヒトゲノム計画」（※米国や日本などの国際間協力によって実施）によって、およそ10年の歳月と3500億円もの費用をかけて、2003年に明らかになりました。遺伝子の解析技術はとても進歩しており、それはもちろん医療にも有用であるし、生き物がどうして病気になるのか、どうして正常なのかを見極め、原因を探る上でも非常に重要な意味を持った物質であると言えます。一方で、佐々木教授が力を入れているのは「脂質」の研究です。遺伝子は水溶性（水に溶ける）です。生命科学は、水に溶けるものを対象に研究が進められてきたため、水に溶けない脂質の研究は遅れているそうです。佐々木教授は未開拓領域である脂質に着目し、その解析技術を開発しています。

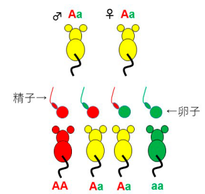
脂質は食事から摂取されます。また、体内では「脂質代謝酵素」の働きで、様々な脂質の合成と分解が繰り返されています。

秋田大学では、がん、神経変性疾患、代謝異常症、免疫疾患などの病気と脂質のオリジナルの病態マウスの作製に成功しています。例えば、ある脂質が「がんに関係する」と見当をつけたら、その脂質代謝酵素を持たないマウスをつくりだし、がんを発症させて、脂質の変化がどのようにしてがんに結び付くのか？、どのような治療薬が有効であるか？といったことを研究するという取り組みです。

まだ世界中の誰も知らない「生物の仕組み」を解明する。

がんに関係する脂質を壊せる正常な酵素の遺伝子をA、壊せない異常な酵素の遺伝子をaとします。普通のマウスは、AA、の遺伝型ですが、遺伝子工学と呼ばれる方法で、"Aa"の遺伝型をもつマウスを作って、そのオスとメスを交配します。そうすると次に産まれる子マウスは、AA、Aa、aaの3通りの遺伝子型になります。このような、異常な遺伝子（a）を持った卵子と精子の組み合わせの場合に、ようやくaaの遺伝子型のマウスが産まれます。このマウスはがん脂質を壊す酵素を持ちません。よってこのようなマウスは、ある遺伝子の活動が破壊・欠損された、ノックアウトマウス（Knock-out mouse）と呼ばれています。

このマウスに生じる異常を研究することが、脂質と病気の関係を知る有力な手がかりとなり、また、投薬のテストにも利用しているそうです。



病気の原理を知るためには、何度も何度も様々な角度からの実験が不可欠です。ヒトの病気は治すもので、実験対象ではありませんので、ヒトに似た病気をもつモデルマウスが有用です。また、そのような病態マウスの利点は、再現性がある、つまり「科学になる」ことだと佐々木教授は言います。

「脂質代謝を標的にした新しい医療」を創り出したい

「医療を良くしていくためには、既存の医療を上手に使う人の育成も大切ですが、新しい医療をつくる人の育成も医学教育者の担うべき役目です。医学部には新しい医療を創り出したい気持ちを持つ人は少なくありませんが、年々、業務の負担が増えて、その余裕がなくなってきています。研究をする医者はすごく貴重なんです。だから他の人と違うことを成し遂げたい高校生は是非医学部に入って研究者を目指してください。今の時代ほど、それが重用されることはないですし、無類の研究好きである佐々木教授は語ります。

病気は現在、発症した部位別に病名が付けられています。とても直感的であり、世の中に浸透している分類方法です。これからは、病気の原因となる遺伝子や脂質などの分子によって、病気の再分類が進むと考えられます。そのようなより細かな分類によって、一人ひとりの患者ごとに最適な医療の実現が見えてきます。治療効果が高くて苦痛が少ない薬の開発や選択が可能となります。

遺伝子研究はすでに進んでいます。佐々木教授は、「誰ががそれ以外の分野を研究していけば、その中の誰かは、誰も予期しない新しい発見にたどり着くことができる」という考えのもと、未開拓の領域である脂質分野を選びました。「脂質」の視点から病気を特徴付けることを目指し、「脂質代謝を標的にした新しい医療」の実現、その中でも秋田県で特に多い消化器系のがんや認知症などの治療への新たなアプローチを目指しています。

論文発表で、世界中の研究者と成果を共有する。

秋田大学大学院医学系研究科　病態制御医学系　微生物学講座ホームページ　http://www.med.akita-u.ac.jp/~bisei/index.htm

●秋田大学研究者特設サイト「Lab Interview」で、インタビューの詳細や学生の声を掲載していますので、ご覧ください。　http://www.akita-u.ac.jp/honbu/lab/

リレーエッセイ 第4回

秋田大学に期待すること

秋田大学経営協議会学外委員の皆さんから秋田大学に対するメッセージを寄せていただいております。

東北電力株式会社執行役員秋田支店長
工藤　和典

秋田大学(以下「秋大」)、秋田市出身の私にとっては、あこがれの大学であると同時に大変お世話になった大学でもある。

私の出身中学は、秋大のお隣、秋田東中学校(以下「東中」)である。中学時代の私は、サッカー部に所属していたが、東中のグラウンドは狭い上に、今では考えられないが、1学年約600人、全校生徒は約1800人もいるマンモス校だったため、グラウンドをつぶして新校舎を建築しなければならなくなった。それでなくても狭いグラウンドがますます狭くなったので練習場所を校外に求めざるを得なくなってしまったが、その時、手を差し伸べてくれたのが、秋大であった。「陸上競技場が空いている時は使用して良い」との許可を得て、練習に明け暮れたものである。練習場所を提供していただいただけではなく、時には、医学部男子サッカー部の皆さんの胸をお借りし、練習試合をさせていただいた。結果は手前味噌になってしまうが、勝率8割以上だったと記憶している。また、秋大蹴球部の皆さんとも試合をさせていただいたが、こちらの勝率については、読者の皆さんのご想像にお任せしたい。

私は、その後、秋大の北にある秋田高校に進学した。そこでは、お昼時、キャンパス内の学生食堂を利用させてもらう機会に恵まれた。当時は部外者も利用できた・・・か、記憶は定かではないが、大学関係者に咎められた記憶はない。大らかな時代だったかもしれない。

このように、勉学以外で大変お世話になったが、文系(経済学部)志望だった私は、残念ながら県外の大学に進学せざるを得なかったため、秋大への入学はかなわなかった。それが、今こうして、中学、高校時代に大変お世話になった秋大の経営協議会委員として係われることに不思議な縁を感じている。

さて、最近の大学を取り巻く状況は厳しい上に、少子高齢化の影響もあり、秋大への入学希望者も減少気味と聞いている。優秀な学生を多く集めるには、なんと言っても大学自身の魅力をアップさせる必要があると思われる。魅力的で優秀な教員らや勉学に適したキャンパス環境などは重要であろう。と同時に今時の学生にとっては、住む街の魅力も重要な要素かもしれない。

私も一経済人のはしくれとして、官民一体となって秋田県・秋田市の活性化に努めていきたいと思っている。

秋大には他の大学に負けないよう独自色を出し、大学の魅力を高めていただき、優秀な学生を確保すると同時に日本の将来を託せる人材の養成をお願いしたい。

秋大の卒業生から、少子高齢化が進む日本の将来を救う人材が、多数輩出されることを切に願っている。

卒業生の皆様へ、大学から感謝の気持ちを「秋田大学ホームカミングデー」開催

第3回秋田大学ホームカミングデーを平成29年10月14日(土)に開催します。ホームカミングデーは、卒業生の皆様に大学へ足を運んでいただき、各種イベント・企画を通じて、秋田大学の今をご覧いただきます。

今回は、記念講演会や交流会などを企画。第51回秋田大学祭との同時開催となるため、各学部の研究室などが開放されており、在学生と交流を深めることもできます。

卒業生の皆様におかれましては、ご家族、ご友人をお誘いのうえ、ぜひこの機会に、秋田大学へお越しください。

全体会

交流会

写真は第2回秋田大学ホームカミングデーの様子(平成28年10月15日開催)

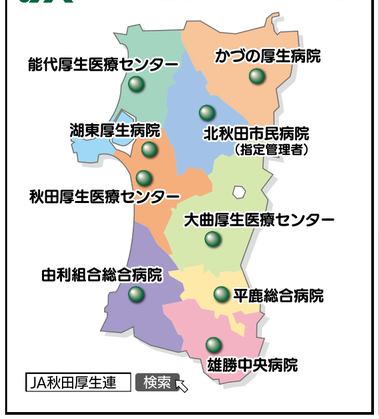
第3回 秋田大学ホームカミングデー

- ●開催日:平成29年10月14日(土)
- ●場　所:秋田大学手形キャンパス
- ●内　容:記念講演会、交流会(予定)

※詳細については、秋田大学公式ホームページなどでお知らせします。

【お問い合わせ先】　秋田大学広報課　〒018-8502 秋田市手形学園町1番1号　TEL:018-889-2854　FAX:018-889-3242

秋田県厚生農業協同組合連合会



JA秋田厚生連　検索

丁酉会は、秋田大学病院の患者、職員及び学生への便宜供与に関する事業を行うとともに、医学研究の奨励助成を行い、患者等の利便と医学振興に寄与します。

病院での生活を、もっと便利に、快適に
一般財団法人 丁酉会
保険調剤
丁酉会薬局
秋田大学病院前

秋田大学生協は秋田大学生を応援します
秋田大学生の学生生活を日常的にサポートするのが大学生協です！
夏季休業中の各店舗の営業時間もここからチェック！
秋田大学生協HP
つながる元気、ときめきキャンパス。
univ. CO-OP
秋田大学生協　☎0120−327−141

先輩なう。 秋田大学卒業生の今(=なう)をご紹介。

PROFILE

羽賀 愛沙美さん

ニプロ株式会社　大館工場
第五製造部　製薬課
生産技術職

◆工学資源学研究科
生命科学専攻
2014年3月修了

今の仕事内容、やりがいを教えてください。

「体外診断用医薬品」という人や動物に直接触れることなく疾病の診断を行う医薬品を製造しています。その中で私は、血液中のタンパク質などの測定物質と試薬を反応させ、病気かどうかを検査するキットの製造に携わっています。

難しい仕事を任され、苦労することもありますが、目標を達成した時には、自らの成長を実感することが出来るということにやりがいを感じています。

今の仕事を目指したきっかけを教えてください。

学生時代、病気の原因となるタンパク質やDNAを研究していく中で、医療に貢献できる仕事がしたいと思うようになりました。ニプロは、様々な分野の医療機器や医薬品の開発・製造・販売を手掛けており、自分の専門性を生かせる場面が必ずあるのではないかと考え、入社を決めました。

就職活動で特に準備されたこと、気を付けたことはありますか。

就職活動を始めるにあたって、何から始めればよいのかがわからず、進路・就職支援センターのスタッフの方々にお世話になりました。エントリーシートの添削をお願いしたり、就職活動のためのガイダンスや外部講師を招いての講演などに積極的に参加しました。進路・就職支援センターのスタッフと話をする機会を増やすことは面接の練習にも繋がりました。

卒業された学部を選んだ理由を教えてください。

色々な学部がある中で、生物、化学、物理学と幅広い分野を学ぶことで生命の仕組みを深く学ぶことが出来るのではないかと考えたからです。また、秋田大学に新しい学部が出来るということを知り、新しいことに挑戦できる機会に多く恵まれるのではないかと思い選びました。

秋田大学での学びが、現在どのように生かされていますか。

研究課題に取り組む中で、行き詰まると友人や先生方とディスカッションをしたり、参考書を読んで問題を解決するよう努力してきました。大学は個性豊かな仲間に囲まれていることからたくさんの意見を得ることができます。「問題解決能力」を磨き合う、それが大学ゼミの学びだと思います。

仕事ではお客さまとの些細な行き違いがクレームに繋がったり、誤解を受けたりすることがあります。そのような問題に対して、自分なりに分析、改善、解決する必要があり、私自身、この能力は大学での学びによって鍛えられたと感じています。

後輩にメッセージをお願いします。

時間がたくさんある学生時代に、悔いが残らないようたくさん遊び、たくさんの人と出会ってください。サークル、アルバイト、ゼミなど何か一生懸命打ち込めることを見つけることが、就職活動に必須の自己アピールを探すことにつながると思います。就職活動中は悩むこともたくさんあると思いますが、笑顔と自分らしさを忘れずに悔いのない就職活動を送ってください。

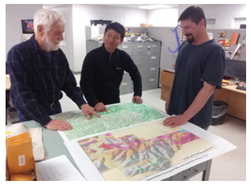
PROFILE

竹内 章人さん

住友金属鉱山株式会社
Sumitomo Metal Mining Pogo LLC
資源(地質・探鉱)

◆工学資源学研究科
地球資源学専攻
2010年3月修了

今の仕事内容、やりがいを教えてください。



私は米国アラスカ州にあるポゴ金鉱山で探鉱を担当しています。鉱山での探鉱技術者としての目標は採掘(生産)をするための金鉱脈を発見することです。そのために、まず過去の様々な地質データや探鉱結果を洗い出し、地下のどこに金鉱脈が眠っているのか仮説を立てます。その仮説に基づいて、坑内・坑外から試錐探鉱(ボーリング探鉱)を計画します。実施された試錐で金鉱脈を発見した時は非常に嬉しく、考えていた仮説が結果に結びついたことに喜びを感じます。そのワクワク感が忘れられず、ポゴ金鉱山のさらに別の新しいエリアで金鉱脈を発見したいという意欲が湧きます。

今の仕事を目指したきっかけを教えてください。

金属資源や金属鉱床の形成メカニズムに興味があり、大学時代は金属鉱床学研究室に在籍していました。そこで養った知識を生かして、実際の探鉱現場や鉱山で挑戦してみたいと思い、鹿児島県の菱刈鉱山をはじめ、世界各地で積極的に探鉱を展開している住友金属鉱山に魅力を感じ入社しました。会社では業務を通じて、とても良い経験を得られています。

就職活動で特に準備されたこと、気を付けたことはありますか。

職場でどのようなことに貢献できるのかを想像するために、各社の就職説明会や見学の前から、研究室の卒業生に「職場での仕事内容」「新入社員が求められていること」について話を聞いていました。結果として、早い段階から将来について考えることができました。

卒業された学部を選んだ理由を教えてください。

秋田大学は設立当初から鉱山専門の学校であったことを高校生の時に知り、選択しました。その後、卒論研究の担当教員であった石山大三教授、水田敏夫教授(当時)に丁寧なご指導をいただき、大学院も引き続き金属鉱床の研究に従事したいと思いました。

秋田大学での学びが、現在どのように生かされていますか。

「卒業論文」や「修士論文」の際に、課題のエリアに数ヶ月間滞在し、地質調査を行いました。その際に学んだ地質・岩石の観察方法や解釈方法といった技術的経験、および数ヶ月間の調査を達成したという精神的経験が力となり、入社後の探鉱調査の仕事に生かされています。

後輩にメッセージをお願いします。

大学生活は、積極的に色々なことをチャレンジできる良い機会です。興味を感じたらまずはすぐに行動しましょう。

住友金属鉱山が行なっている資源開発は長期間に渡り、多くの人が関わる、とてもスケールの大きい仕事です。個人の様々なアイデアやチャレンジ精神も求められます。一緒に資源開発の仕事をする方を待っています。

Interview

NEWS＆TOPICS

ニュース＆トピックス

2017.04. ›››2017.06.

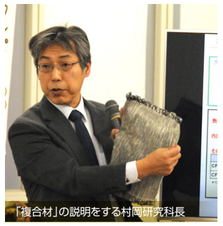
APRIL 4

秋田大学など4機関が「秋田複合材新成形法技術研究組合」を設立

秋田大学、秋田県立大学、日本精機株式会社、株式会社三栄機械の4機関は、将来の航空機部品製造の拠点化を目指した『秋田複合材新成形法技術研究組合』（以下「技術研究組合」）を4月3日付けで設立しました。理事長には、秋田大学の小川信明理事（地方創生・研究担当）が就任、学内に事務局を設置し円滑な運営と知的財産の一体的な管理を行っていきます。秋田県では航空機部品等の事業化を目的に複合材の革新的なコスト製造技術の開発を行っていますが、本技術研究組合において、さらに技術研究開発の推進を図るとともに、この技術が「安く」「軽く」「容易」にできることが特徴であることから、航空機以外への広範な応用も期待されます。

4月4日に秋田県庁で行った記者会見では、村岡幹夫理工学研究科長（技術研究組合専務理事）に就任が、当該技術開発に係る研究内容について説明。「航空機産業の発展によって、地域の活性化や雇用の創出に寄与していきたい」と話しました。

【技術研究組合】
技術組合法に基づく法人で、産業活動において利用される技術の試験研究を協同で行うための組織。


「複合材」の説明をする村岡研究科長

秋田大学に期日前投票所を設置・学生ボランティアが運営をサポート

選挙権年齢が18歳以上に引き下げられてから初めて、秋田市で秋田県知事選挙と秋田市長選挙が実施されました。秋田大学では学生の選挙への参加意識を高めるために、秋田市選挙管理委員会と協力して手形キャンパスに期日前投票所を設置しました。期日前投票所が設置されたのは昨年夏の参議院議員選挙に続いて2回目となります。

投票所の運営は、市選管担当者の指導の下、学生ボランティア21名で行われ、4月5日の期日前投票日には、投票に訪れた学生・教職員、地域住民の誘導や投票所の受付、投票用紙交付等の業務を担いました。

投票者数は大学の授業開始前の時期にも関わらず、前回の参議院議員選挙に並ぶ400名ほどとなり、投票所設置の周知が進んだことに加え、「18歳選挙権」に対する意識が学生に浸透していることなどから多くの投票者が訪れていました。

投票用紙を交付する学生ボランティア

投票に訪れた学生や地域住民の方々

平成29年度入学式を挙行

4月6日、秋田県民会館で秋田大学入学式を挙行しました。

平成29年度入学者は、大学院生を含め1294名。内訳は、国際資源学部122名、教育文化学部213名、医学部241名、理工学部424名、大学院261名、学部編入33名でした。

式では、山本文雄学長が「大学では学問的な成長だけでなく、人間的にも成長していく礎を培ってほしい。人の痛みを自分の痛みとして感じる、人としての力を大学生活の中で育んでいくことを期待する」と告辞を述べ、新入生代表として理工学部の佐藤真優子さんが「秋田大学の学生として学則・教育方針に従い、豊かな教養と高度な学術の習得に勉める」と宣誓を行いました。在学生からは「自分自身がどのような大学生活を送りたいかを意識して、思う存分様々なことに挑戦し、成功も失敗も成長の糧としてほしい」と歓迎の言葉がありました。

また、式終了後の会場外では、サークル勧誘に多くの在学生が集まり、明るい声で新入生に入部を呼びかけるなどして賑わいを見せていました。

新入生に告辞する山本学長

新入生代表による宣誓

会場外でサークル勧誘を行う在学生

地域振興を目的に秋田魁新報社と連携協定を締結

4月11日、秋田県の地元新聞社である株式会社秋田魁新報社との包括連携協定締結式を実施しました。

この協定は、秋田大学が保有する教育・研究・医療の機能及び資産と、同社が保有する報道・媒体・情報発信の機能及び資産とを連携させ、緊密な協力と信頼関係の下に相互に協力することによって、地域社会にその成果を還元し、秋田県の発展に貢献することを目的としたものです。目的達成のために「地域社会の人材育成に関すること」や「地域社会の発展に係る調査・研究に関すること」などで連携協力していくこととしています。

締結式では、山本文雄学長が「秋田大学は地域のニーズに答える人材育成・研究を推進する大学として様々な取り組みを行っており、今回の協定によって『地域密着』の理念を秋田魁新報社と共有しつつ、地域貢献をより一層強く推進していく」と挨拶しました。また、同社の小笠原直樹代表取締役社長から「秋田大学が実施している様々な地域貢献の取り組みについて、秋田魁新報社の持つ県内ネットワーク・情報発信力を生かして広く周知していきたい」と挨拶がありました。

秋田大学と企業等との協定締結は、今回で15件目となります。

協定を締結し握手する山本学長（右）と小笠原社長（左）

MAY 5

地質の日にちなみ鉱業博物館で無料開放

5月10日、大学院国際資源学研究科附属鉱業博物館（以下、鉱業博物館）で無料開放を実施しました。

これは国立研究開発法人産業技術総合研究所地質調査総合センターで実施している「地質の日（5月10日）」にちなみ行われたもので、当日は県内の中学生や、多くの地学ファンが来館し、鉱業博物館の運営をサポートしているサイエンスボランティアから展示標本の説明を受けていました。

鉱業博物館は、鉱山技術者養成のために1910年に設立された秋田鉱山専門学校の列品室にはじまり、その後、新制大学発足当時の鉱山博物館を経て、1961年に現在の鉱業博物館が建設されました。創立以来100年にわたって研究や学生教育のために収集された地質・鉱工業関係の資料は膨大な数にのぼります。様々な色と形の鉱物・鉱石、珍しい岩石や化石を多数展示しているほか、資源開発の流れと鉱山技術の根幹部分を実機と精密模型で分かりやすく解説しており、期間限定の企画展・特別展や市民開放講座を通して、大学の最新の研究や幅広い学術分野の成果を紹介しています。

解説するサイエンスボランティア

学生による地域志向活動「地域交流朝市」

5月20日、連携協定を締結している14自治体（市町村）のうち6自治体（北秋田市、男鹿市、仙北市、美郷町、東成瀬村、湯沢市）の協力のもと、手形キャンパスで「秋田大学地域交流朝市」を開催しました。

この朝市は、学生が地域の特産品や地域の諸課題について事前学習をした上で販売・PRすることを前提としており、学生が地域への関心を持つことのきっかけづくりの事業として位置づけられています。

6回目の開催となる今回は、各地域へ足を運び特産品の製造やこだわりについて学んだ学生13名がブースに立ち、来場者との交流を楽しみながら、担当する地域の魅力を発信しました。

晴天に恵まれた朝市当日は、朝8時からの販売開始前から長蛇の列ができ、人気の特産品は30分で売り切れてしまうほどの盛況ぶりでした。また、同じ会場では、よさこいやアカペラ、ニューアンサンブルなどの学生サークルによる演舞や演奏の披露も行われ、インフォメーションセンターでは、学生が横手市山内地区と協働で製作している、大学オフィシャルいぶりがっこ『いぶりばでぃ』の試食が行える“いぶりばでぃカフェ（製作した学生がカフェを運営）”をオープンし、買い物帰りの方々で賑わいました。

この地域交流朝市は秋にも実施を予定しておりますので、ぜひお越しください。

よさこいサークル「よさとせ歌舞輝」による演舞

販売前の長蛇の列

学生がブースに立ち、地域の特産品を販売

いぶりばでぃの試食コーナー

JUNE 6

在学生と卒業生によるミニコンサート「秋田大学MUSIC LIVE」を開催

6月10日、学生の音楽サークルと、シンガーソングライターとして地元で活躍している栗林聡子さん（教育文化学部卒業）によるミニコンサート“秋田大学MUSIC LIVE”を開催しました。

このコンサートは、学生サークルの日頃の練習成果の披露と、さらに地域で音楽活動を行っている卒業生との共演により、多様な音楽を地域の方々に楽しみ親しんでいただくことを目的にインフォメーションセンターが企画したものです。

学生サークルからは「JAZZ研究会」と「秋田大学混声合唱団A.Choir（エースクワィア）」が出演。それぞれの演奏のほか、栗林さんの歌やピアノ伴奏に合わせたコラボレーションで会場を盛り上げました。また、コンサートでは、秋田師範学校・現・教育文化学部）の卒業生である成田為三氏が作曲した『浜辺の歌』や『秋田県民歌』も披露されるなど、卒業生と在学生の時代や世代を超え、そして、音楽のジャンルも超えた音や歌声の融合が観客を魅了しました。

弾き語りをする栗林さん

混声合唱団（ピアノ伴奏 栗林さん）

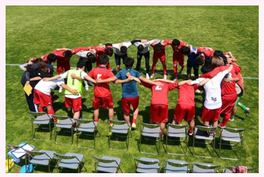
男鹿半島は
いいどごだぁ
空気はうめぇし
水ったもうめぇし
武田のとうふもうめぇなぁ
やっぱり
男鹿はいいどごだぁ
武田のとうふ
秋田県男鹿市男鹿中山町下芋の沢20番地の10
TEL 0185－33－2505　FAX 0185－33－3531

最近、親との会話が弾みます！
秋田魁新報のウェブサイトが変わった！
新規会員は さきがけ電子版の利用料 初月無料!!
©こばやしたけし
新聞購読料 ＋ 324円（税込）
利用料は購読料（月ぎめ3,035円）と一緒にお支払い
秋田魁新報 電子版
http://www.sakigake.jp/　さきがけ　検索

世界中の人々の「健康でありたい」という願いに応えてニプロは、求められる製品・技術を開発し、提供し続けます。
信頼の医療機器・医薬品
ニプロ 株式会社 大館工場
〒018-5794 秋田県大館市二井田字羽貫谷地8番地7
TEL：0186-49-5111　FAX：0186-49-3944
URL http://www.nipro.co.jp/

僕らの課外活動

蹴　球　部



蹴　球　部
- ○主　　将：飯澤 玲央（教育文化学部 学校教育課程 教育実践コース 3年次）
- ○所属人数：30人（マネージャー7人）
- ○活動日時：火曜・水曜・金曜 16:30～20:00 土曜・日曜9:00～12:00 もしくは12:00～15:00
- ○活動場所：秋田大学陸上競技場

勝ったら全員で喜び、負けたら全員で悔しがるチーム

美しい人工芝が自慢の秋田大学陸上競技場。多くの運動部が活動する中、蹴球部の面々も日々練習に汗を流しています。監督は蹴球部OBでもある、秋田大学職員の鈴木雄さん。監督不在時には主将の飯澤玲央さん（教育文化学部 学校教育課程 教育実践コース 3年次）が指導者側に回って部員を引っ張っています。各自フリーランで体を温めた後は、「鳥かご（ロンド）」という基本練習が始まります。オフェンス役を3人決め、他のメンバーがディフェンス役となります。オフェンス役はディフェンス役にボールを取られないようパスを回します。鳥かごは単なるボール回しではなく、サッカーの基本動作がフルに詰まった練習方法とされています。

練習参加人数が多い日にはハーフコートを使用してゲーム形式の練習を、人数が集まらない日でも狭い枠を作って練習するなど、個々の学生生活にも配慮した上で工夫して練習メニューが組まれています。

蹴球部の一番の強みは仲の良さ。学年の壁を越え、レギュラー、控えのメンバーに関係なく、チーム一体で戦う団結力をもったチームです。特に大会中は熱心に声出しを行ったりと、熱い思いを持った部員たちが揃います。部員は全員経験者ですが、マネージャーは全員未経験者とのこと。入部当初はサッカーの知識がほぼゼロでも、日々の練習や練習試合を重ね、マネージャーとしての仕事を覚えていきます。今では大会の記録取りもこなす、頼もしい皆さんです。

練習・試合で心がけていること

ＭＦ（ミッドフィルダー）として、主将として、部員をまとめる飯澤さんに、練習や試合で心がけていることを聞きました。

「サッカーをしていて一番楽しいことは、自分でイメージしたようにボールを止め、イメージした場所に蹴ることだと思います。選手としては、それを心がけてプレーするようにしています。主将としては、チームがバラバラにならないように周りを鼓舞することです。長い時間気を引き締め続けることはなかなか難しいと思います。そんな中でも自分が中心になって皆の気持ちを引き締められるよう、集中力を切らさないことを意識しています」

今後の目標「やりたいサッカー」を貫いて1部昇格！

7月から東北地区のリーグ戦が始まりました。昨年度までは1部リーグに所属していましたが惜しくも降格。今年度からは2部リーグに属しています。リーグ戦の概要変更で試合数が増えたことから、1部リーグ昇格への道は簡単ではないそうですが、昇格を目標に日々練習に励んでいます。

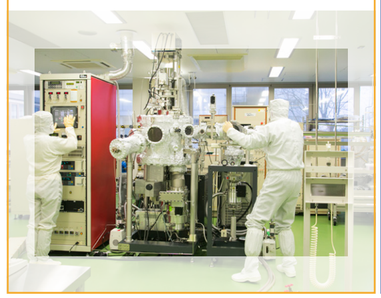
そんな闘志に燃える蹴球部が目指すプレースタイルは「ポゼッションサッカー」。スペインのクラブチーム「FCバルセロナ」に代表される、常に自チームがボールを持ち主導権を握って攻めるという攻撃型のサッカーです。

「今はまだ『やりたいサッカー』ができていないです。『やりたいサッカー』ができるように、具体的な目標としては、リーグ戦の1部に上がることを目標としています。昇格はなかなか狭き門ではありますが、実力のあるチームだと思っているので、自信をもってプレーをしています。南東北はレベルが高いのですが、北東北では圧倒して勝ちたいと思っています」と、飯澤さん。

「練習と試合とのオンオフの切り替えを苦手としています。その甘さが試合運びにも表れてしまっているので、切り替えを徹底していかなければと思っています。あとは立ち上がりの遅さも課題ですね。試合開始後すぐに失点してしまうことがあったので、練習中から入りを良くして改善していきたいです」と、部の課題をしっかり見つめる頼もしい主将と、それを支える部員の皆さん。リーグ戦を勝ち進み、チーム全員の喜ぶ姿が眼に浮かぶようです。

表　紙　は

原子レベルの構造制御にほこりは大敵。防塵衣をまとい、クリーンルームへ。高性能電子デバイスなどに使う薄膜の成膜プロセスや材料を検討する実験装置。



国立大学法人秋田大学の役職員の報酬・給与等について

公表内容

Ⅰ 役員報酬等について
- 1 役員報酬についての基本方針に関する事項
- 2 役員の報酬等の支給状況
- 3 役員の報酬水準の妥当性について
- 4 役員の退職手当の支給状況
- 5 退職手当の水準の妥当性について
- 6 業績給の仕組み及び導入に関する考え方

Ⅱ 職員給与について
- 1 職員給与についての基本方針に関する事項
- 2 職員給与の支給状況

Ⅲ 総人件費について

Ⅳ 法人が必要と認める事項

主な概要

1. 役員報酬及び職員給与の年間総額　（単位：千円）

役　員	報酬等総額
学　長	18,260
A理事	12,857
B理事	13,810
C理事	12,831
D理事	13,414
監　事	10,463

職　員	年間平均給与
事務・技術職	5,165
大学教員	7,979
病院看護師	5,169

2. 人件費総額　（単位：千円）

平成28年度	15,858,020
平成27年度	15,782,582
比較増△減	+75,438 (+0.5%)

平成28年度に係る本学役員の報酬及び職員の給与水準の資料を秋田大学公式ホームページに公表しています。
http://www.akita-u.ac.jp/honbu/publicinfo/pu_legal.html

茶　道　部

茶　道　部
- ○代　　表：山下 慎矢（理工学部 生命科学科 3年次）
- ○所属人数：25人
- ○活動日時：月曜・木曜 16:00～20:00
- ○活動場所：大学会館２階　和室

元々は男性の文化だった茶道

和気あいあいとしながらも、静かで厳かな雰囲気が漂うのは大学会館２階の和室。ここでは週に２回、茶道部の皆さんが活動しています。月曜日には外部から先生を招いての稽古が行われています。

茶道部の面々がたしなむ流派は「裏千家」。千利休のひ孫に当たる仙叟宗室（せんそうそうしつ）が継承した裏千家は、伝統を崩さない表千家に比べ、新しさを挑戦的に取り入れ、多様で華やかなお道具も特徴とされています。明治時代の学校教育へも積極的に参入したことから、裏千家は茶道人口の半数を占める代表的な流派となりました。近年では、本家である「表千家」、分家である「武者小路千家」と併せて「三千家」と呼ばれています。

部員は女性ばかりかと思いきや、和室に入ると男女比は約半々であることに驚かされます。茶人・千利休が豊臣秀吉の側近として仕えていたことからもわかるように、かつて茶道は武士や豪商など、身分の高い男性しかできなかったものでした。

男性部員の小松達輝さん（理工学部 システムデザイン工学科 2年次）に、茶道を始めた理由を聞いてみました。「今の2年生のほとんどは、大学入学と共に茶道を始めました。私の入部理由は、新しいことに挑戦してみたいという思いと、礼儀作法を身につけるためです。1年生の時は慣れない正座に苦労しましたが、今では長時間座っていられるようになってきました。季節によってお道具もお点前（てまえ）も変わるので楽しみです」畏まらずに和やかな雰囲気の中で教え合い、お互いを高め合う姿勢が茶道部の魅力だと語ってくれました。

まずは基本の所作から

お茶を点てる一連の動作を、お点前（てまえ）と呼びます。お稽古では、お点前を反復して練習します。初心者や1年生は最初に、お道具の扱い方や歩き方などを習います。「畳を擦らせながら道具を移動させない」「大切な物には左手を添える」等、お道具を丁寧に扱うための動作の決まり事がいくつもあります。初めに習う基本動作に「袱紗（ふくさ）さばき」があります。基礎の、棗（なつめ）と茶杓を清める所作を用い、一連の流れを覚えます。そしてお点前をする上で必要な一連の所作の基礎部分を細かく段階をわけてお稽古していく「割稽古」も行います。

茶道部のお点前は文化祭のお茶会で堪能することができます。この日は一般の方へもお茶を点てておもてなしをします。文化祭では、季節に合わせたお道具や掛け軸、花器の選択から準備までを２年生が中心となってお茶会をつくり上げます。

他にはお正月の初釜、卒業時の卒業茶会などがあります。

心はお点前にあらわれる

部長の山下慎矢さん（理工学部 生命科学科 3年次）は叔母の影響を受け小学1年生から6年生まで茶道を習っていたそうです。茶道歴9年目の「茶道男子」である山下さんは、茶道は自分を高めるための良い文化であると話します。「心が乱れていると、うまくお点前ができないことがあるんです。茶道は自分を見つめ、また自分を高める事へつながります。いつも『一杯のお茶に感謝の意味を込めて捧げる』という気持ちでお茶を点てるようにしています。常に気持ちを穏やかに平常心でいること、精神統一を心がけています。また、日本文化を知り、それを後輩たちに教えてあげることもモチベーションアップになっています」と茶道の魅力を語ってくれました。

Column 文章力up

携帯電話のなかった時代の話です。学校から帰宅後、好きな女の子に連絡するには、自宅に電話をかけるしか方法がありませんでした。これは大変な緊張です。

お父さんがでるという「最悪」の場面や、お母さんが受話器を取ってしまう可能性もある。根掘り葉掘り質問されたらたまらない。「夜分、失礼いたします。私○○と申します」などと敬語の練習を何度かした後に、意を決してダイヤル。お父さんが出たら、思わず電話を切ってしまったり、女性の声だったので安心して馴れ馴れしく話しかけたら、お母さんやお姉さんだったり。恋の数だけ「悲劇」もありました。学生時代の友人の話、ですが……。

個人が持つ携帯電話では（用のある）相手が出ることがお約束になっています。自分を知っている人が相手なのですから、普段、その間柄で使っている言葉で話せばいい。「あのさー」とか「どうしたあ」など、いきなりの語り口。「明日、どうする」などと本件から入ってもかまわない。悪質な「オレオレ詐欺」の根底は、有線電話時代と携帯電話世代の「混線」でないか、とすら思ってしまいます。

さて、就職。平成生まれの学生さんたちが挑むのですが、採用する側は皆さんの言うところの「昭和の人たち」が元気です。私も含めたこの世代は、ふと漏らした一言、さりげなく書いた一文につい、眉をひそめてしまうようなことがあります。適切な距離感を保ちながらも、相手との距離を縮めていかなければいけないのです。

適切な距離→相手は友達ではない。

距離を縮める→会社は、素敵な後輩を待っている。だから、知りたい。

自分がなぜ、この場（面接）にいるのか。なぜこの文章を書いているのか。相手（がいること）を明確に意識することが大切なことだと思います。そのうえで、言葉（文章）を組み立てていきましょう。

頭の訓練です。皆さんの「得意」なＬＩＮＥのスタンプや、メールの絵文字の発想を一度、捨ててみましょう。

例えば友人相手では、ワンクリックで済ませてしまう「笑顔」のマーク。これを言葉（文章）にすると、どうなりますか。「とてもうれしい」のか「そうだね」レベルのことなのか。なぜ、どこに「笑顔」の要因があるのかも加えたいものです。今の気持ちを最も適切に表現する言葉を選ぶことを試みてみましょう。

すごく多くの同じようなスタンプから、皆さんは日々、瞬時に一つを選んで「既読」後に「返信」していますね。これも才能ですが、記号で済ませていることを、あえて文章に構築することを試みてください。「平成」の感性に嫉妬する「昭和」からのお願いです。

♥♥👍☺

秋田大学副理事 国際担当
（元朝日新聞記者）
高橋 康弘

Aprire
秋田大学広報誌〈アプリーレ〉
第56号 平成29年7月発行
No. 56
2017 JUL
[企画・発行] 国立大学法人 秋田大学 広報課 | 秋田市手形学園町1番1号 〒010-8502 TEL:018-889-3019 FAX:018-889-3242 E-mail:kouhou@jimu.akita-u.ac.jp |

イベント&講座・講習会 Event,Seminar,Workshops & Extension course

催し物

教育文化学部天文台イベント

天文サイエンスカフェや大学教職員による天文講演会、45cm反射望遠鏡を使った夜間天体観察会を実施します。

- 8月 5日(土)17:30〜20:00
- 9月 2日(土)17:00〜19:30
- 10月 7日(土)16:30〜19:00
- 教育文化学部3号館3階301地学実験室ほか
- 対象／どなたでも
  (夜間観察会は中学生以下は保護者同伴)
- 参加費／夜間観察会は保険料1人50円
- ☎018-889-2655(教育文化学部地学研究室)
- mouri@gipc.akita-u.ac.jp

第13回 能代宇宙イベント

宇宙を目指す高校生・大学生による日本最大規模のアマチュア宇宙イベントを開催します。

- 8月17日(木)〜8月22日(火)

※8月20日(日)は一般公開日と設定し、一般の方にロボットの操縦などを体験いただけます。

- 能代宇宙広場(能代市浅内第三堆積場)
- 対象／どなたでも
- 参加費／無料
- ☎018-889-2806
  (大学院理工学研究科附属ものづくり創造工学センター)

第3回 子どものづくり教室

ものづくり体験型授業を開催します。能代宇宙イベントの開催に合わせ、モデルロケットの製作・打ち上げ体験を実施します。

- 8月20日(日)10:00〜、11:00〜
- 能代宇宙広場(能代市浅内第三堆積場)
- 対象／小中学生(各定員20名)
- 参加費／無料
- ☎018-889-2806
  (大学院理工学研究科附属ものづくり創造工学センター)

医学部附属病院　地域医療患者支援センター・がん相談支援センター主催

「ひだまり教室」

〈がん治療に伴う外見の変化に対するサポートについて〉
看護師と社会福祉士が「がん治療に伴う外見の変化に対するサポート」について説明し、質疑応答を行います。
- 8月31日(木)14:00〜15:00

〈社会保障制度について〉
社会福祉士が「社会保障制度」について説明し、質疑応答を行います。
- 9月27日(水)14:00〜15:00

〈高額療養費制度について〉
社会福祉士と看護師が「高額療養費制度」について説明し、質疑応答を行います。
- 10月26日(木)14:00〜15:00

- 医学部附属病院　院内図書室「ひだまり」
- 対象／どなたでも
- 参加費／無料
- ☎018-884-6039(医事課医療サービス室)

秋田大学理工学部 平成30年度 アドミッション・オフィス(AO)入学試験

「学力」に偏ることなく、「個性」「意欲」「積極性」なども含めて合格・不合格を総合的に判定する入試です。詳細は大学公式ホームページをご覧ください。

- 出願期間／平成29年9月7日(木)〜9月13日(水)
- 試 験 日／平成29年9月30日(土)
- ☎018-889-2313(入試課〈理工担当〉)

第51回 秋田大学祭

「Adventure」をテーマに、ステージ企画、企画展示、模擬店などを行います。

- 10月14日(土)・15日(日)10:00〜17:00
- 秋田大学手形キャンパス
- 対象／どなたでも
- 参加費／無料
- ☎018-889-2255(学生支援・就職課 課外活動担当)
- akitaunifes@gmail.com
  (秋田大学祭実行委員会)

わたしだけのものづくり体験！教室2017

楽しみながら理工系に興味を持ってもらえる様々なものづくり企画を体験いただけます。

- 10月14日(土)10:00〜16:00
- 秋田大学理工学部1号館第1会議室
- 対象／どなたでも
- 参加費／無料
- ☎018-889-2422(大学院理工学研究科技術部)

平成29年度

秋田大学高大接続教育フォーラム

大谷大学　荒瀬克己教授による基調講演のほか、グループセッションにより高大接続教育について理解を深めます。

- 10月27日(金)13:20〜16:30
- 秋田大学手形キャンパス
  60周年記念ホール、一般教育1号館教室　ほか
- 対象／秋田大学教職員、秋田県内高等学校教員、その他大学及び高等学校等教育関係者
- 参加費／無料
- ☎018-889-3045(総合学務課高大連携室)
- setsuzoku@jimu.akita-u.ac.jp

秋田大学みらい創造基金
ご協力をお願い申し上げます。

秋田大学は、多くの皆様からご協力いただいた「秋田大学教育研究支援基金」を引き継ぎ、平成26年11月に「秋田大学みらい創造基金」を創設いたしました。

この基金は、全学的な事業を支援する「一般基金」と、使途を特定した「特定基金」で構成され、現在、企業・団体や個人の皆様など多くの方々にご支援をいただいております。この基金は、教育・研究による社会への貢献という本学の使命を果たすための大きな支えとなっており、今後一層の拡充を図りながら、有効に活用させていただきます。

〈ご寄附のお願い〉
- ●個人の方：一口　1,000円
- ●法人の方：一口　10,000円

この基金の趣旨をご理解いただき、なにとぞ複数口のご協力をお願いいたします。
また、継続的なご寄附もお待ちしております。寄附者様のご都合に合わせた寄附方法・金額の設定が可能ですので、詳細は基金事務室へお問い合わせください。

〈ご寄附の方法〉
- ●振込によるご寄附　●クレジットカードによるご寄附
- ●古本募金によるご寄附　●遺贈によるご寄附

寄附のお申し込み、詳細につきましては、秋田大学公式ホームページをご覧いただくか、基金事務室までお問い合わせください。

一般基金

教育の質の向上及び研究の推進支援
1 横断的な教育・研究プロジェクトへの支援、次世代の研究を担う研究者の学際的・国際的な活動への支援、男女共同参画への支援等を行います。

学生への奨学金等支援
2 学生、留学生への経済的支援、学生・団体への課外活動支援、教育文化学部附属学校園の活動支援を行います。

教職員・学生等の国際化・文化・社会活動等支援
3 秋田大学が持つ人的・物的資源を活用し、国際社会・地域社会で多様な形で行われる活動を支援します。

卒業生・産業界等との連携支援
4 ホームカミングデー等同窓生が相互に連携できる活動を支援します。秋田大学の教育研究環境を活用し、多くの企業と共同で行う活動を支援します。

学部等への支援
5 学部・大学院等の教育研究の充実のため、機器、学術図書・雑誌等の充実・整備を図ります。

施設・環境整備の充実
6 教育研究環境をより発展的なものとするため、校舎や図書館、グランドなどの改修や整備を行い、キャンパス環境を充実させます。

特定基金
- 病院寄附金
- 教育文化学部寄附金
- 理工学部寄附金
- 修学支援事業寄附金
- 国際資源学部寄附金
- 医学部寄附金
- 附属学校園寄附金

〈お申し込み・お問い合わせ先〉
秋田大学みらい創造基金事務室
〒010-8502
秋田市手形学園町1番1号
☎018-889-3266（総務企画課内）
kikin@jimu.akita-u.ac.jp

秋田大学みらい創造基金は秋田大学公式ホームページからお申し込みいただけます。
(http://www.akita-u.ac.jp/honbu/ed_fund/index.html)
秋田大学　みらい　検索

〈寄附者ご芳名〉この基金の趣旨にご賛同、ご協力いただきました皆様へ、心より感謝申し上げます。今後とも秋田大学の教育・研究活動等に対し、格段のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

企業・団体等
- ●秋田県厚生農業協同組合連合会　様
- ●秋田大学生活協同組合　様
- ●秋田大学有志一同　様
- ●株式会社秋田魁新報社　様

個　人

●浅田　昌弘　様	●猪股　祥子　様	●工藤　工　様	●佐藤　健一　様	●佐藤　佑樹　様	●鈴木　敦　様
●石川　ひとみ　様	●岩井　肇　様	●小島　聖史　様	●佐藤　正志　様	●柴田　健　様	●長沼　誠子　様
●市川　逸郎　様	●大高　麻衣子　様	●佐々木　清　様	●佐藤　祐一　様	●菅原　ツエ　様	●山方　遥　様

他　匿名希望　13名様(延べ数)(平成29年2月〜平成29年4月末入金分　五十音順)